

令和 8 年 8 月 20 日

北海道医療ソーシャルワーカー協会 会員の皆様

北海道医療ソーシャルワーカー協会
在宅医療・ケア推進専門部会
部会長 田上 幸輔（静明館診療所）

入院医療機関と在宅医療機関の情報連携に関するアンケート調査へのご協力をお願い

当専門部会では、治療を終えたクライアントが再入院することなく、住み慣れた地域で安心して暮らし続けられる支援体制（「ときどき入院、ほぼ在宅」の実現）を目指し、病院と在宅の双方向の協働関係づくりを推進しています。

昨年度の調査では、急性期・回復期病院の MSW における業務の切迫や、在宅移行時における本人・家族の「価値観の引き継ぎ」が不十分であるといった構造的な課題が浮き彫りとなりました。これらを踏まえ、今年度は「急性期病院→在宅クリニック」間の情報連携におけるギャップを埋めるための、具体的なテンプレート（標準化ツール）の作成を目指しています。

つきましては、仕組みの構築に向けた第一段階として、2026 年 9 月 30 日（水）に「入院医療機関と在宅医療機関の情報連携フォーラム」を開催する運びとなりました。本フォーラムに先立ち、会員の皆様が日々の業務で直面している具体的な連携上の課題やギャップを可視化するため、事例に基づいた事前アンケート調査を実施いたします。

皆様からいただいた貴重なご意見は、フォーラム当日に匿名化したデータの形で分析結果として共有し、今後の情報連携テンプレート作成に直接反映させていただきます。

ご多忙の折、誠に恐縮ではございますが、本調査およびフォーラムの趣旨をご理解いただき、以下の要領にてご協力を賜りますようお願い申し上げます。

1. アンケート（事前課題）調査 概要

- 1) 目的：入院医療機関と在宅医療機関との情報連携における「スピード感のズレ」や「医療処置・物品調整」「患者・家族の意向把握」に関する具体的なギャップを抽出し、解決への土台を構築すること。
- 2) 対象者：北海道医療ソーシャルワーカー協会 会員の皆様（特に急性期病院、回復期病院、在宅クリニック、等に所属するソーシャルワーカー）
- 3) 主な調査内容：
 - ① 退院支援の際のアセスメントの視点や課題認識について。
 - ② 退院調整時における医療物品（サクション、点滴材料、医療機器等）や手技指導（サクション、おむつ交換等）の引き継ぎにおけるボトルネック。
 - ③ がん等の疾患における患者・家族への病名・予後告知、意思決定支援の共有状況。
- 4) 回答方法：以下に記載のオンラインフォーム（Google フォーム等）よりご回答ください。
回答用 URL：<https://forms.gle/Tv4S6Ygvy1Tnvkmj6>
回答期限：2026 年 9 月 16 日（水）まで



お問い合わせ先：在宅医療・ケア推進専門部会（担当：田上）
メールアドレス：msw22.tagami@seimeikan.or.jp